

撮影中の SARS-COV-2 の感染に関するリスク・プロテクション

安全のための基本的ルール

政府の規制に基づく非常事態の終結後、映画製作が再開される。

本書類は、感染防止のための技術的・組織的な確立のための基本的な方法を示している。

撮影はそれぞれ異なるため、撮影が開始される前にリスクに応じた具体的な対策が必要である。

イントロダクション・ノート

- 政府の予防措置が縮小・中止された後も、伝染の危険性がある。
 - 最初の数週間から数ヶ月は、それ以上ではないにしても、程度は低いが続する。
- 映画の撮影中は、異なる職業の人が複数のプロジェクトに並行して参加するのが一般的である。そのため、撮影現場でのリスクは、クローズドのオペレーションより高くなる。
- 可能な処置は、深刻な状況にない限り、各地の感染対策に基づき 3~6 週間続くだろう。これはプロジェクト全体を危険にさらす可能性があり、深刻に受け止めなければならない。
- リスク分析と感染に関する対策の採用は、European Safety Directive 89/391/EEC に準拠した複合リスク分析に準じるものでなければならない。(個々の国における EU の法律は、規制の一部が異なる場合がある。そのためこの文書は、その国の認可された衛生安全専門家に相談することが重要である)。分析は、労働局の審査を受ける場合がある。
- リスクアセスメントの方法に従って、技術的な、また全体のオーガナイズに関する対策を決定する。有資格者を利用すること。

安全な撮影のための 10 の基本的な推奨対策

1. 俳優と俳優に関連したスタッフの検査

全ての俳優、スタントおよび俳優と接触の可能性のあるエキストラは、健康状態と SARS-CoV2 検査での陰性を証明しなければならない。医師の推薦による検査は、現在信頼性の低いスピーディーな検査ではなく、綿棒によるものであること。

検査が適切であるために、検査後の俳優が外出制限の規則を遵守することが不可欠である。そのため、撮影のスケジュールを組む際に検査日程を考慮することが重要である。

a. 俳優 - 俳優、吹替俳優、俳優と同じシーンの撮影のあるスタウトマンは、俳優と同様のルールに従ってテストを受けなければならない。

b. 俳優のいないシーンのエキストラ - 専用の部署を持つこと。撮影シーン以外ではフェイスマスク

を着用すること。

c. 俳優が出演しているシーンでのエキストラ - 2m 未満の距離が必要なシーンの場合は俳優と同様にテストを受けること。また他のエキストラと区別されること。

d. 以下の隔離規則との組み合わせによる陰性検査 - 検査は、必要な場合において、マスクの着用と置き換えることができる。感染の疑いはプロジェクト全体を危険にさらす可能性があるために、主要スタッフは検査を受けることを推奨する。

e. メイクアップ - メイクアップ・アーティストは、俳優用のメイクアップの場所を個々に「a」「c」「d」と明記し、別々に用意しなければならない。また俳優なしのシーンのエキストラとは区別されること。レスピレーターマスクや保護手袋の着用が求められる。俳優とエキストラとで別のメイクアップアーティストにすることを推奨する。

2. 個人保護キット - 基本的な保護具は3つのカテゴリーに分けられる。

フェイスマスク (他人を保護)、レスピレーターマスク (着用者を保護、ただ感染を広げる可能性あり) とゴム/ラテックス手袋

活用の仕方：

a. 各自が使用する個人保護キットの決定。個人用保護キットの使用法、配布、交換のシステムを確立する。

b. フェイスマスク

1日12時間以上の長時間撮影の場合は、スタッフ1人に対し4枚のマスクを用意する。外部の請負業者を含め、撮影に参加するすべての人に適用される。

c. 呼吸フィルター付き保護ハーフマスク

俳優とスタッフのためのフェイスマスクの代替品。呼吸フィルター付きの保護ハーフマスク (より呼吸がしやすく、フィルターは掃除が可能。マスクは消毒され、FFP3より高い保護標準を持つ。これを着用すると、クルーが長持ちする)。特に撮影日数が多い場合には、コストを下げるができる。

d. レスピレーターマスク

スタッフ全体を保護するために、(理想的には FFP3 クラスの) レスピレーターマスクを使用してください。SARS-CoV2 検査が陰性の俳優やスタッフが優先的に着用する。

e. ウイルスや細菌に対する保護手袋

大道具またその他の指定された人は保護手袋を着用しなければならない。俳優が触れる危険性のある表面は必ず消毒すること(撮影敷地内の消毒のためには、大道具をサポートするために、一時的なスタッフ、または大規模な撮影の場合は外部の専門企業を雇うことを推奨する)。

f. その他の部署のための保護手袋

撮影現場を離れるスタッフ（プロデューサー、運転手、制作部など）は、撮影場所の汚染を防ぐために、保護手袋を着用すること。

3. 各自の消毒 撮影中は各自が以下の衛生ルールを守ることが重要である：

a. ここでも個人用保護キットと同じ手順が適用される：各自が使用する個人保護キットの決定。個人用保護キットの使用法、配布、交換のシステムを確立する。

b. 各自の消毒

撮影シーンが広範囲に及ぶ場合は、撮影中に消毒スタンドを離れても大丈夫なように、スタッフは消毒ウェットティッシュまたは 30ml の携帯用の消毒液を携帯しなければならない。

c. 消毒スタンド

手の消毒ジェルのあるスタンドを機材、ケータリング、そして撮影現場に設置すること。

d. 物の消毒

町の公共スペースで撮影する場合および多くの人々が密集する空間で撮影をする場合、スプレーによる空間消毒の検討を推奨する（特に大規模な製作の場合）。

e. 車輦等での撮影

プロダクションはすべての車輦の消毒を提供すること。スタッフ・キャストが乗る車輦も同様。

f. 支度部屋の消毒

屋外撮影の場合、メイク部・衣裳部は作業場と俳優用の椅子を消毒しなければならない。

g. 衣裳の消毒

衣裳を定期的に消毒することが重要である。その頻度は、個々のリスクアセスメントによって異なる。

4. 現場での運営

特に最初の数ヶ月間考慮すべきことは、

公共の場でより広いスペースの使用が必要になる事。そうすることでスタッフは分散することが出来る。ポイント 2 を参照のこと。同時に、スタッフが食事を取るために必要な十分な広さが確保されていること。通常のベンチではなく、携帯用の椅子を優先的に使用することを勧める。

a. 特定スタッフの隔離

メインスタッフ、俳優、その他の交代が難しいスタッフは、その他のスタッフから隔離する。(そういったスタッフ・キャストの個々の衣裳部屋、待機部屋、メイク室、ケータリングルームを用意するなど) 具体的な施策はプロジェクトごとに異なる場合がある。また必ず個人のリスクアセスメントに基づくこと。

b. 積み替えの場所

大規模な撮影は、セット外から持ってきたものには消毒が必要な可能性があるため、積み替え用の場所を設けることを推奨する。

5. 体温の計測

すべてのスタッフ・キャストは、撮影開始前と撮影場所に入る前に非接触型の体温計で体温の測定をしなければならない。新しい業者等は、到着時に計測する。体温が何度まで大丈夫だと認められるかは、各国の健康規則に準じる。

6. ケータリング

食事、つなぎなどはテイクアウェイ形式にする必要がある。各スタッフは食事を受け取ったらケータリング場所から離れることで、ソーシャルディスタンスを守ることができる。スタッフ食事を取る際に、十分なスペースがあり、ソーシャルディスタンスのルールを守ることができるようにすることが重要である。日中のお茶場も同様。主食を含むすべての食事が小分けになっている場合は、複数のケータリング場所を用意する必要はない。

7. 撮影場所の安全の確保 ロケーションと、ロケハンの安全の確保に分かれる。

a. 撮影中

常に安全に場所をロックアップし、許可なく人が入ってくることを防ぐことが大切である。

b. 準備中

ロケハン中は、ロケハン前に除菌されている場合を除き、その場所は汚染している前提で扱うこと。つまりスタッフは個人保護キットを使用しなければならない。具体的には、リスクアセスメントのガイドラインで明記されていること。

8. 必要な書類

各プロダクションは、個々のリスクアセスメントにこれらの対策を実装しなければならない。また、外部の会社にも同様に対策の実装を要求しなければならない。

リスクアセスメントの支援が必要な場合は、ヨーロッパ・インスティテュートに映画プロジェクトの安全性についてお問い合わせください。または、各国の認可された安全衛生の専門家にご連絡ください。

さい。

撮影を開始する前に、制作会社と外部の会社は、感染症のリスクに関するだけでなく、以下の事項を熟知しておく必要がある。この知識の習得は、講義の出席簿に署名するなど、書面上で確認できること。

これらの注意事項を遵守すること、SARS-CoV-2 検査結果の提出と、またこれらを守らない場合の損害賠償責任に関して、各スタッフとの契約書に追加されなければならない。

撮影場所には、下記のような案内板を設置することを推奨する。



予防 手洗い：よく手を洗い、感染をさけましょう

覆う：咳やくしゃみをするときは口と鼻をティッシュや袖で覆いましょう。使ったティッシュは捨てましょう

触らない：洗っていない手で目や鼻、口を触らないこと

清潔に：誰かが触った可能性のあるものや表面は、清潔に保ち、こまめに消毒すること

パンデミック前と比較して業務フローが根本的に変化していることを念頭に置き、このような形での対策のリマインドが重要である。

9. 撮影中の管理

撮影現場における様々な感染の可能性の対策は、映画の安全性の専門家、労働安全衛生管理者、または訓練を受けた権限のあるスタッフが責任をもって調整を行わなければならない。

個々のコーディネーターによる能力の違いは、以下の通りである：

a. 映画の安全性の専門家

リスクアセスメントの作成に参加し、OSH(労働安全衛生マネジメントシステム)の対策を、映画の技術

的、問題点、その必要性に関する知識を使い脚本に合わせて創造的に適応させることができる資格を持っている。請負業者のリスクアセスメントに関しても、正しい形への文章化を監督する。

b. OHS（労働安全衛生）管理者

労働安全管理のための有資格者。上記の対策を修正する資格がある。通常は純粋な労働安全衛生の観点からであり、芸術的な理由による変更ではない。請負業者のリスクアセスメントに関しても、正しい形への文章化を監督する。

c. 訓練を受け許可されたスタッフ（例：制作部）

撮影の最初に用意されたチェックリストに従い、確立された措置を遵守することのみ許可されている。対策を変更する権限はないが、コンプライアンスを保証し、トレーニングの書類化を監視する権限がある。

10. 廃棄物管理

使い捨てのフェイスマスク、手袋などは有害廃棄物として処理する。使用済みのものは丈夫なビニール袋に入れ、保護手袋を使い廃棄する。布製のフェイスマスクを使用する場合は、スタッフは密封可能なビニール袋を用意する。また滅菌目的で煮沸する可能性があること。

スタッフまたは外部スタッフが実施されている安全対策に違反または遵守を拒否した場合は、撮影から排除すること。プロデューサーによる全面的なサポートがこれらの施策を実施する上で必要不可欠である。

本書類の主な 4 つのポイント

- a. エントリーデータの収集
- b. リスク分析の実施
- c. 対策方法の確立
- d. 実施計画の作成 - 誰が、いつ、どのように、責任を持って、コントロールするか

この推奨事項は、専門家の協力のもとヨーロッパ・インスティテュートにより映画業界の安全のために APA（Audiovisual Producers Association）へ向けて作成したものである。

著者：Mgr. Jiri Kosorinsky、Ing. Michal Svoboda, PhD.

専門家によるコンサルテーション・認可・校正：Projects PO, s.r.o., Brno, MUDr. Marek Joukal, PhD., SEFEX、撮影の安全に関する専門家、Bc. Janka Neustupova B.A. (Hons)、M.A. MUDr. Vera Hurkova、APA - Audiovisual Producers Association、BcA. Pavlina Zipkova